

第31回青少年芸術祭開催



多くの作品、多くのご来場ありがとうございました

【展示部門】

10月30日(土)、31日(日)の二日間、飯山市民館講堂を会場に開催されました。

飯水教育会の皆さんのご協力をいただき、飯水地方の小中学生が制作した県児童生徒美術展入選作品及び飯水美術展入選作品など絵画415点、習字(毛筆・鉛筆)441点、創作作品68点の計924点が展示されました。

自分の作品を見つけて喜ぶ子どもや家族の皆さんなど、感性豊かな作品に見入る人たちの姿が終日見られ、多くの来場者を迎えることができました。

多くの関係者にご協力いただき、ありがとうございました。



城南中学校の皆さんによる校歌斉唱

【舞台部門】

11月3日(水)の文化の日に、飯山市民会館かまくらホールを会場に開催されました。

去年は新型インフルエンザの感染拡大防止のため、中止となってしまいましたが、今年は18団体540人の市内の小中学生、高校生に出演していただき、日頃の練習の成果を発表してもらいました。

演目に城南中学校の校歌斉唱、城北中学校の校歌合奏をはじめ、合唱、合奏、吹奏楽、和太鼓演奏、演劇、ダンスに朗読等々、各団体とも、のびのびと楽しそうに演奏したり、歌ったり、踊ったりしている姿が印象的でした。

多くの観客にもご来場いただき、発表が終わる度に、温かい拍手が会場に響き渡りました。

飯山ふるさと検定

「一般の部」で4名のマイスター誕生！

10月2・3日に行われた第4回飯山ふるさと検定は、小学生22人、中学生の部16チーム、一般の部20名の方が受検されました。一般の部マイスター(達人)では、これまで

「主催行事や継続について」

太田地区専門部員 藤田 大志

昨年太田地区は球技大会と日程が近く、繁忙期で参加しづらい等の理由から運動会の中止を決定しました。代替案を模索しましたが、結局新しいことをはじめられないまま、一年が過ぎました。

それまでの行事をそのまま引き継いでいくだけでは、他の行事もいずれ形骸化し、やがては行事がなくなる可能性が現実味を帯び始めています。

任期も残すところあと一年になり、消滅のきっかけを作った専門部員にはなりたくないもので、存続のための道筋を刻まなくてはなりません。

行事のマンネリが参加人数の減少を加速させています。新しい行事を考えつければ一番

他の地区の専門部員の方と年に1、2回顔をあわせる機会はありませんが、いずれも研修会や青少年芸術祭の幕間という短時間のため地区に情報を還元するまでには至りません。

与えられた機会を利用するのではなく、自ら赴いて話を伺わせていただくことにしましたので、各地区館の方々、その時はお力添えをよろしくお願い致します。

マイ★オピニオン
意見・私見

「公民館活動について思うこと」

岡山地区桑名川公民館長 渡辺 和英



公民館事業というと、スポーツであれ文化事業であれ、一言で言うところ、とにかく人を集めて何かをやる事だと思つてこの役に取組みました。

少子高齢化で人口の減少が進む当地区では新しい事業よりは、例年の事業を無事にこなせばと思つていました。幸い天候にも恵まれて、一つを除いて計画した事業ができて嬉しかったです。どの事業でも、会議を含めて段取りが8割で、残りが2割位かと思いましたが、行事の開催までの準備が大変だなあと実感いたしました。そのような中で、優秀な運営委員と婦人部員の力を借りて無事に終わった事を本当に感謝しております。

行事の一例を挙げますと、子供たち、そして大人も喜んでくれた魚のつかみ取りとバーベキュー、一年ぶりに顔を合わせて、酒を酌み交わしな

マイ★オピニオン
意見・私見

かまくら祭り発々 「飯山といえはみゆきポークとコシヒカリ」

みゆき豚井で飯山を元気にする会会長 鈴木 誠一

平成22年2月、10回目を迎えたかまくら祭りでは、かまくらサミットを開催し、雪国の地域経済の活性化を一つの目標に、飯山の数あるおいしい食材の中から、みゆきポークとコシヒカリを使った丼のグランプリを開催しました。当

会では、このグランプリを契機に、高橋まゆみ人形館のオープン、4年後の新幹線飯山駅開業をまたとないチャンスととらえ、市内飲食店様の御協力をいただき、みゆきポークとコシヒカリを使ったメニューを市内外の15店舗で提供する

取り組みを始めた。

おりしも、大型の観光キャンペーンである信州デステイネーションキャンペーンとタイミングが合い、市観光局他、各種団体の皆様のお力をいただくことができ、このほどメニュー提供飲食店のチラシも作製することができました。

また、当該



▷「ご当地グルメ大集合」では、お昼前に完売するという盛況ぶりでした。



△ 作製したチラシの一部